

栃木県歴史文化研究会会報

特集 ちぎの浮世絵・
刷り物・紀行

歴文だより

江戸の文化と栃木

石川 達也

江戸時代の文化を代表するものとして、その時代の流行をとらえた絵である「浮世絵」がある。大量に摺られた安価で親しみやすい絵画として十七世紀後半に急速に発展した浮世絵は、女性を描いた「美人画」、歌舞伎を舞台とした「役者絵」から始まり、

十八世紀には極端な透視図法で描く風景画による「名所絵」も登場した。十九世紀には葛飾北斎（宝暦十年?（一七六〇?）～嘉永二年（一八四九））や歌川広重（寛政九年（一七九七）～安政五年（一八五八））などの多くの絵師によって江戸を始め全国の風景が描かれるようになり、北斎の「富嶽三十六景」では当時最先端の舶来顔料であった「ベロ藍」を使用した空や海の美しい青の色彩で一つの確立を見た。

今年のNHK大河ドラマの主人公である葛屋重三郎（寛延三年（一七五〇）～寛政九年（一七九七））は、浮世絵に代表される出版文化が隆盛した江戸時代中期から後期にかけて活動した版元である。

栃木市では、大河ドラマの主人公が葛屋であることが発表されて以降、市ゆかりとしてPRしている喜多川歌麿（宝暦三年（一

七五三）～文化三年（一八〇六））がどのように登場するのか、また、栃木市の活性化につながるかと、期待が高まっていた。またそれを受けて、住民グループが歌麿と歌麿が愛した町とちぎの歴史や文化について情報発信・研究を行う拠点施設として、市内大通りに面した旧呉服店の見世蔵を利用した広報施設「とちぎ歌麿交流館」を開設した¹。

栃木市が「蔵の街」と並んで「歌麿」をゆかりの人物として推し、街づくりの重要なポイントとする理由は、歌麿と栃木の人々との交友関係にある。巴波川の流通で栄えた栃木の町は、商人や職人は江戸に弟子入りする場合もあり、経済的・文化的な江戸との交流が深かった。例えば栃木を代表する商家の一つである釜屋（釜喜）という小間物屋を営んでいた善野喜右衛門（四代目善野喜兵衛）は、唐衣橘洲の門下で、通用亭徳成と名乗り狂歌を学んでおり、天保八年（一八三七）には、歌川芳虎らの画により「敵鯉差身之業物」を著したほか、安政三年（一八五〇）には、「都賀のやままつ」という狂歌本を編んでいる。歌麿は筆綏丸と名乗り狂歌も嗜んでいたが、通用亭と歌麿は狂歌を通じた交流があったとされている。栃木の商人たちと歌麿の交流の傍証とされているのが、栃木市内で発見された歌麿

第 134 号

編集・発行

栃木県歴史文化研究会

事務局

〒320-0865

栃木県宇都宮市睦町2-2

栃木県立博物館内

TEL 028-634-1313

FAX 028-634-1310

郵便振替口座

00300-1-19207

の肉筆画「女達磨図」（寛政二年（一七九〇）～五年（一七九三））、「鍾馗図」（寛政三年（一七九二）～五年）、「三福神の相撲図」（寛政三年～五年）²であり、また、「深川の雪」（享和二年（一八〇二）～文化三年（一八〇六）頃、岡田美術館蔵）、「品川の月」（天明八年（一七八八）頃、フリーリア美術館蔵）、「吉原の花」（寛政三年～四年（一七九二）頃、ワズワース・アセーニアム美術館蔵）³も、通用亭の叔父である善野伊兵衛（初代釜伊）の依頼で描いたとされ、歌麿と栃木の関わりを示している。

これらのゆかりにより、栃木市では毎年秋には「歌麿まつり」を開催、二年に一度の秋祭りとして併せて市内の大きなイベントの一つとなっている。また栃木市立美術館では、開館以来毎年秋には浮世絵を中心とした展示を企画している。令和六年度は「北斎展」師とその弟子たち⁴（十月五日～十二月八日）を開催し好評を得ており、令和七年度も前述の「雪・月・花」の高精細複製画の展示を含め、浮世絵の展示が企画されている⁴。

なお隣接する栃木市立文学館では、「北斎展」で北斎による「東海道五十三次」が展示されるのに合わせ、「東海道を旅したとちぎの人々」（三月二十三日）⁵を開催している。江戸時代後期に伊勢参宮をはじめと

する旅が流行した背景には、各地のガイドブック的な役割を果たした「名所図会」⁶（展示は、「伊勢参宮名所図会」、「東海道名所図会」、「大和国名所図会」）やビジュアル的な広報や土産物としての「名所絵」や「道中双六」等の出版があったという視点からも展示をご覧いただけるであろう。

とちぎの人々は、江戸で出版された書籍や浮世絵を、購入以外にも借用したり、写したりして入手していた⁶。それらを扱う店（書肆や貸本屋等）、その流通経路や受容層等、まだ不明な点が多いが今回的大河ドラマを良い機会として、これらの研究が進むことを期待したい。また、ドラマで歌麿がどのように描かれるのか、栃木は出てくるのか、楽しみに視聴したい。

1 栃木市倭町一〇―二、開館は、月曜・金曜（午前十一時～午後三時）、土曜・日曜・祝日（午前十一時～午後四時）

2 いずれも栃木市立美術館蔵

3 栃木市立美術館では、三点の高精細複製画を収蔵しており、毎年秋に栃木市立美術館で展示公開される。（展示期間等については変更もあるため、同館公式サイト等を参照。）

4 栃木市立美術館・文学館の企画展等の情報については、それぞれの公式サイトを参照。

5 とちぎの人が記した道中記やその行程の紹介、広重の「東海道五拾三次」（複製）などを展示。詳細は同館公式サイト等を参照。

6 江戸時代の人々がどのような本を読んでいたのか等の近年の研究成果として、小山市立博物館で開催されていた企画展「江戸時代の本と読書」（九月二十八日～十一月二十四日）がある。